

の御健康を祈ります。

◎宮崎より

長谷川清子

そゝりたつ杉のむら立をこめて、匂ひやかなる細き雨、あたたかく降りて候。こゝ南の國に、さすらひの子は、これをしも悲しと見つゝ、そゝるかいやりし歌反故の中より、いさゝかを、ものしまゐらせ候。

灰ふる國

埋もれて化石となりし後の世のわが面ざしの清かれと思ふ。

火もふれや天地こがせや大神のあらびはかくと世に知らすべく。

このまゝに逝かば得なまし美しき名を死ぬまで清き處女なりしと。

静けさをたい静けさを願ひ居り夜を日をこめて灰ふる國に。

灰ふりぬ風ふきぬその二日して晴れたるみ空なつかしきかな。

そゝろ来て

遙にも我は來しかなおのゝきとよろこび心とふたつをもちて。

そゝろ来てふと見いでたりりんごうの紫なるがいと悲しき。

あるときは母をおもひて父こひてはかなくよりぬコスモスのかげ。

みどり葉の中より空をすかしみて小鳥のごともよろこびしかな。

浪あらし日向の濱にわが名してきゆるを見つゝまたもかきしか。

空もよし氣よし水よし草木よし日向の秋のころよさかな。

すみとほる日向の空を野邊にして仰げは心きよくもあるかな。

うきめみしその度毎になげかじとためし涙のおきごころなき。

悲しみの涙見せんを耻としきあまりに強き我心かな。

◎水戸より

竹尾 恵子

音楽室よりひやく卒業式のうたにふと二年昔の此頃思ひ出で、母校出身の人と「ゆきませ」を口ずさみ候ひしは昨日の午前にて候ひき。あの歌に送られてより早や二年をこの地に過し申し候。私は何の變りも御座なく強いて言へば一日／＼と退歩いたすのみに御座候。たゞ元氣よく日々學校に參るをたのしみといたし居り候まゝ、御安心下され度候。會誌を拜見いたす毎々御在校の方々の御めざましき御進歩のさまを伺ひたゞ御めでたく又御羨ましく存居り候。あの頃二年生にていらせられし方々の早や御卒業と伺ふにつけ二年間何して過し候ひしやらんとそゝろ我身のかへりみられ生徒に對し學校に對し申譯なき感のみ致し候。こゝも關東平野と連る一部分氣候なども東京と大差は之なく候へども二月頃より三月末まで身を切る如き筑波下しの吹きすさぶには閉口致し。候日本三公園の一と云はるゝ常磐公園の梅はいま盛りにて日曜日

などは東京よりの觀梅の客に賑ひ居り候。町をはなれて田舎道を少し參りし處にあるこの公園はなか／＼自然にてよろしく春は梅、初夏はつゝ秋は萩に月冬は雪とそれ／＼すぐれ居り候しかしいづれの折にても餘り人出の多からぬ時か一番よろしく存じ候。水戸停車場より太田行といふ小さき汽車にて五十分ほど參り候へば太田町に着き候。こゝは御存じの西山の山莊に水戸家累代の墓所のある處にて私もこちらへ參ると間もなく一度參り候が御存じの如く西山の小莊は光圀公の御隠居所にて下民の狀況を知り質素の模範を示されんためその建物は上下の區別を去り極めて平民的につくられ候て公をしのぶ唯一のものと存じ候。又水戸より汽船、但し最も小さきものにて那珂川を下し候へば大洗海岸に參り候。此頃は乗合自動車も通ひ居り候が河蒸氣の方趣ふかきやうに思はれ候。この大洗は例の「磯で名所は云々」の磯節にうたはるゝ所にてはるかに鹿島灘をへだて、犬吠崎と相對し太平洋の浪は直接に岩にあたりて碎け居り候。



とにかく當地は大日本史に明治維新に大分歴史上名高き地に御座候へども例の私故學校の事と追はれ又はぼんやりいたし居り十分よくも存せず二年間も居りながら皆様に申上げて御役に立つるやうな事は一つも御座なく残念に存じ候。唯何か御調の必要にても御座候は、出来る丈御手傳いたし度くまた御ひまの折御出で下さらば喜んで御案内申上べく候。昔しのばれ御折から御端書に接したゞ御なつかしさのあまり筆とり候へど申上げ度き事は山々ながら筆のはこびの心にまかせずここに此頃は學年末にて成績調査やら作文添削に机上はいつも山と相成り居り心せはしき日を送り居り候まゝ亂筆にて一言御申わけのみと申上候。なほ先生はじめ會員皆々様の御健康と文科會のますゝ發展せらるゝことをはるかに祈り居り候 かしこ

●編輯便り

春だ。今年は殊に花の多かつた校庭の梅も、もうそろそろ散りかけた。東校舎の玄關前にも

クローバーが新しい芽をふき出した。お茶の水の流れさへ、どうやら水かさが増したやうな気がする。いき／＼と若草の萌え出て堤の上では、寒さにかまけて居た近所の子供達がよみがへつたやうに嬉々として遊んで居る。夜おそく圖書室から歸るにしても、耳を切るやうなあの冷たい風はもう吹かぬ。

どうしても春だ。おつくうだつた夕食後の散歩も又しては長くなる時だ。もぐり上つた黒土を踏むとざく／＼音がする。春らしく霞んだ空にはニコライの塔がぼんやり浮んで居る。そんな時に私達はよくあの廣い校庭に出てほしい儘な散歩をする。笑ひさゝめいて居た樂しさうな幾組かの群も見えなくなつて、紅梅町の街の灯が青く赤くまた／＼き出すと、電車の音も急に速力を増したやうに強く響いて来る。私達はいつまでもいつまでも、心ゆく迄さまよつて居りたい月の美しい夜や星のきれいな晩などは、大空に向つて思ふさま聲を立て、見たいと思ふ事もある。然し默學の鐘や、急に來る夜風の寒さは、

いつまでも私達をかうした境に置く事を許さぬ夢のやうな遠い國に引つ張られて居る私共の心には、默學の鐘か警鐘のやうに鳴り響く。試験といふ大波もだん／＼近く押し寄せて來たのだ愚圖々々しては居られぬ。かうつぶやいて私共はあはて、部屋に歸つて机に向ふ。かうした試験前の緊張した心。私はそれを貴い生き甲斐ある生活だと思ふ。

毀された西校舎の材木はそのまゝ高く積まれてある。さすがに廢殘のいたましい思ひもせぬではないが一日々々と目に見えて出來上つて來る新校舎をみればそゞろに新しい喜びが湧いて來る。寄宿舎の購置部も追々擴張せられて商人らしいお世辭さへちよい／＼聞かされる。母校の發展を喜んで頂きたい。

この雑誌は今年度の最終のものとなつた。あまりにブーアであつた事はお許しを願ふより外はない。

しかしお忙しい中を快よくお書き下さつた先生方の御助力によつて光を添へた事は感謝して

頂きたい。

かういふ事にふなれな私達は原稿の集まらぬのに少なからずうろたへた。期日が迫つて來てからあはて、卒業生の方に、御寄稿を乞うた。學藝會や入學試験や數多い調べ物を目前にひかへて居られる事は承知しながら無遠慮なお願ひをした。ことはられても仕方がない私はもうあきらめてがっかりして居た。四日の夜不意に二通の原稿が届いた、續いて五日に又一通届いた。萎れて居た私共は飛び上るほごよろこんだ。大丈夫出來ると自信が湧いて來さうしてこれだのものでも出來上つた私は三人の方に心からお禮を申上げねばならぬ。(幹事)

